

# 福岡県米麦大豆生育情報

平成30年7月17日  
福岡県農林業総合試験場

## 普通期水稻の生育概況と対策

### 1 気象経過 [太宰府アメダス]

	6月20日～7月16日 (27日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	26.3	30.8	22.6	145.5	790
前年差(比)	-0.2	-0.1	-0.8	158	267
平年差(比)	+1.5	+1.8	+0.9	151	211

注) 平年は、1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

### 2 農林業総合試験場における生育概況

6月20日～7月16日の平均気温は平年より1.5℃高く、日照時間は51%多く、降水量は111%多かった。6月8日植「夢つくし」では、草丈は平年より16%高く、茎数は22%少なく、主稈葉数は0.9葉多かった。6月20日植「元気つくし」では、草丈は平年より4～10%低く、茎数は11～12%少なく、主稈葉数は0.1～0.4葉多かった。「ヒノヒカリ」では、草丈は平年並～7%低く、茎数は平年より3～12%少なく、主稈葉数は平年並～0.3葉多かった。「実りつくし」では、前3年と比べ、草丈は14%低く、茎数は11%少なく、主稈葉数は同等であった。

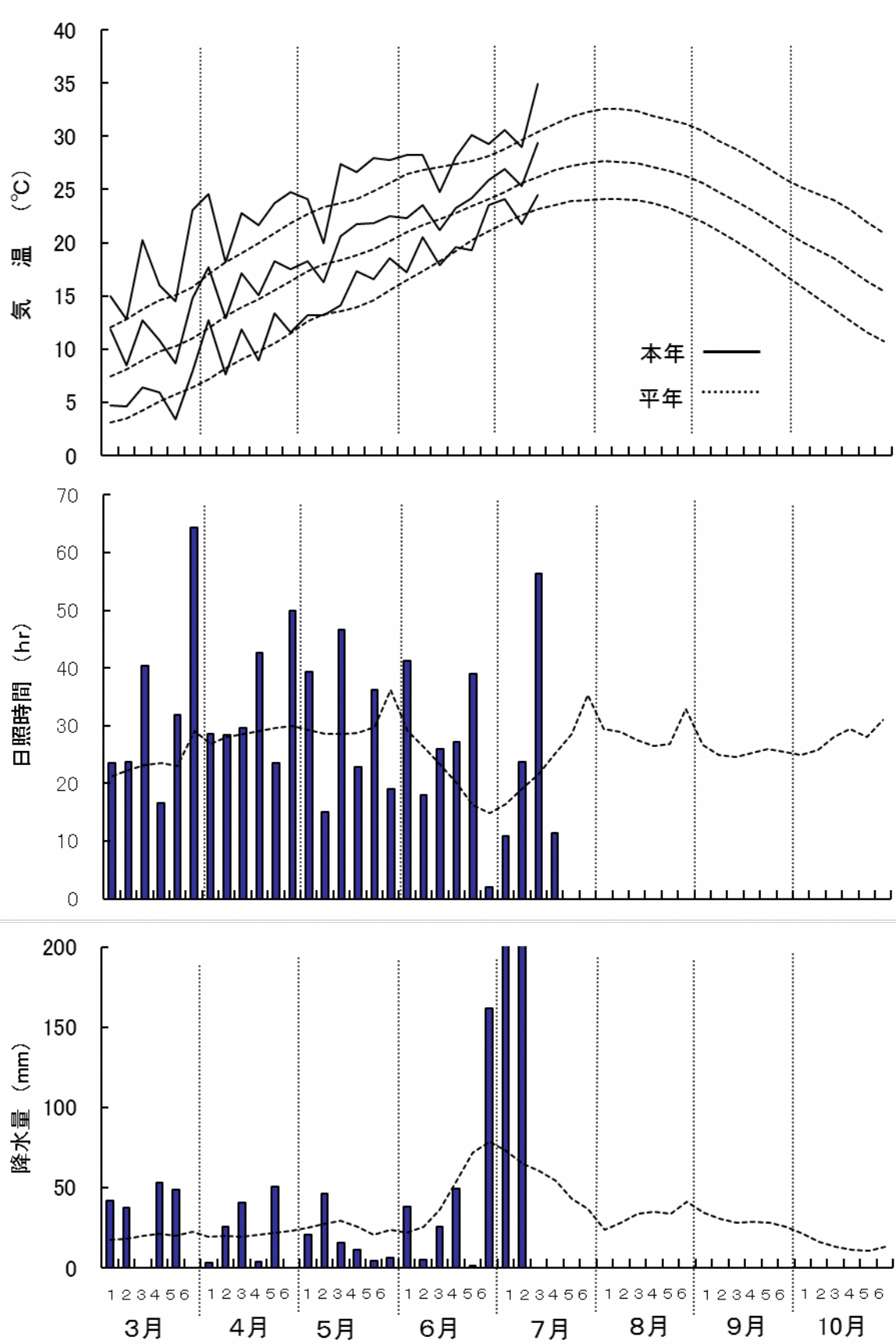
### 3 当面の対策

- 1) 水 管 理  
6月8日植「夢つくし」の出穂期は8月7日頃と予想されるため、早急に中干しを終了し、幼穂形成期以降は水を切らないよう十分にかん水する。  
6月中下旬植の早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始する。特に「元気つくし」は、稈が伸びると倒伏が懸念されるため、中干しを徹底する。  
用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をしっかり保つように努め、中干しは実施しないか、弱めにする。
- 2) 施 肥  
6月8日植「夢つくし」の穂肥施用時期は7月21日頃で、穂肥は生育診断に基づいて施用する。葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなることから、幼穂形成期頃に肥料切れが見られる場合には、出穂前10日頃までに穂肥を施用する。
- 3) 病虫害防除  
いもち病やウンカ類の発生に注意する。特に、いもち病の常発地では、必ず初発時に防除を行う。葉いもちが多発した場合は、穂肥の施用量を減量する。
- 4) 雑草防除  
雑草の発生が多いほ場では、中後期処理除草剤を処理する。  
除草剤は「病虫害・雑草防除の手引き(普通作)」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

4 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	移植期	品種	年次	移植期			7月13日		
				苗長 (cm)	苗齢 (L)	乾物重 (mg/本)	草丈 (cm)	㎡当たり 茎数 (本)	主稈 葉数 (L)
農産部	6/8	夢つくし	本年	12.4	2.7	17.1	72	372	11.0
			前年比(差)	122	0.2	97	92	83	0.3
			平年比(差)	110	0.2	108	116	78	0.9
	6/20	元気つくし	本年	13.0	2.4	16.1	44	294	8.6
			前年比(差)	113	0.1	94	84	107	0.2
			平年比(差)	93	0.1	110	96	89	0.4
6/20	ヒノヒカリ	本年	11.5	3.0	14.4	38	304	8.5	
		前年比(差)	128	0.3	88	88	104	0	
		平年比(差)	95	0.3	104	100	88	0.3	
筑後分場	6/20	元気つくし	本年	14.4	2.3	17.7	42	367	8.5
			前年比(差)	148	0.0	110	80	85	-0.4
			平年比(差)	113	-0.3	118	90	88	0.1
	6/20	ヒノヒカリ	本年	11.0	2.6	18.9	37	430	8.5
			前年比(差)	122	-0.4	122	80	89	-0.3
			平年比(差)	96	-0.3	134	93	97	0.0
6/20	実りつくし	本年	13.8	2.1	17.2	42	355	8.4	
		前年比(差)	140	-0.2	117	83	78	-0.4	
		前3年比(差)	107	-0.1	113	86	89	0.0	

注) ①平年値は過去10か年の平均値。  
 ②この値は暫定値で、今後変更することがある。



2018年（平成30年）夏作期間の気象（太宰府アメダス）